

「医療と経営の分離」痛感

シリーズ

女性経営者

〈上〉



■医療サポート

「愛和病院のお産ストーリーは、妊娠に始まり出産までを厚く支援することです。病院が最高の医療サービスを提供できるようにサポートし、地域に貢献していくことが私たちの使命です」

■病院の原点

出身は長野県下伊那郡鼎(かなえ)町(現・飯田市)。父は地元で産婦人科、叔父は診療所を営むなど、医者の家系に生まれた。

アイワメディカルサービスは、ご主人が院長を務める産婦人科「愛和病院(川越市)の運営サポート会社として、藤田博子(ふじたひろこ)社長が興した。花や絵画が飾られた明るい館内、スタッフの丁寧な

対応、美味しい食事。同社のプロデュースにより、愛和病院のサービスは格段に向上し、利用者からは「安心して出産、育児ができる」と高い評価を得ている。

長野に戻り、診療所を手伝った。長野に戻り、診療所を手伝った。診療所の後継者が見つからず、念願だった産婦人科の交流、地元住民との信頼の築き方。いろいろなことを学びました。濃縮した四年間で。この経験が、愛和病院の原点です」

「住み込みで働く看護師と、念願だった産婦人科との交流、地元住民との信頼の築き方。いろいろなことを学びました。濃縮した四年間で。この経験が、愛和病院の原点です」

「より良い医療サービスを提供するには、『医療と経営の分離』が必要だと強く感じました。そこで、診療以外の面をサポートする会社をつくらうと思ったんです」。

病院を開設。その後、二人の弟も産婦人科医として加わり、病院は順調に発展していった。

規模が拡大するにつれ、業務は複雑さを増した。サービスの質を向上させるには、医師や看護師が医療に専念できる態勢が求められた。



「育児、育母支援を通じて地域に貢献したい」と語るアイワメディカルサービスの藤田博子社長

「アイワメディカルサービス」
本社 川越市古谷上1-1-1
56-11 ☎049-(235) 8814
設立 1985年7月
事業 愛和病院運営のサポート
▽資本金 1000万円
▽売上高 6億円(2008年9月期)
▽社員数 90人(パート含む)

埼玉経済

企業、団体商店街などの話題や情報をお寄せ下さい
TEL 048・795・9161 FAX 048・653・9040

最高の育児・育母支援を

シリーズ

女性経営者

〈下〉

アイワメディカルサービス

藤田 博子社長

◆役割を明確化

「ドクターやナース、助産師など、資格を持った医療関係者以外は、アイワメディカルサービスに移籍してもらいました。会社を設立した一番の成果は、役割を明確化できたことだと思います」

当初は清掃スタッフやドライパーら約二十人でスタート。お産セットの中身や食事の献立など一つひとつの項目を見直し、知恵を出し合い改善を図った。「朝食の飲み物はトマトジュース、オレンジジュース、オレンジジャー」と振り返る。

◆仕事の誇り

ベッドメイキングなど身の回りの世話を「お世話係」や、病院の「ごあんない係」など、多様なセクションを創設。保育士や社会福祉士、フラワーアーティストらスペシャリストも現場に取り入れ、サービスの質や施設の環境を充実させた。

「医療の資格を持ったドクターやナースと一緒に働く中で、いかに誇りを持って仕事をしてもらえるか。常に気を配っています」

「新生児のケアをする仕事にやりがいを持っていないという保育士がいたのですが、担当していた子の母親から『お宅の病院は保育士さんがいるから、安心して子どもを預けられる』と言

われたとの話を聞き、『やってきたことが役に立ってじゃない』とほめたら、自母”支援を柱とする新館

◆母親の心のケア

信を持つてくれるようになった。小児科外来や健診センター、リラクゼーションルームを完備した施設で、建設にあたり企画運営を全面的に担当した。



母親の心の支援、を行う「愛ちゃんワールド館」

「娘が双子を出産し、一緒に生活する中で、仕事をしながら子育てに追われる娘の不安や悩みを目の当たりにしました。特に生後百日までの子を持つ母親の“心の支援”を行う場が必要と痛感したんです。同館には、癒しを求めて、多くの利用者が訪れる。

このほか海外の姉妹病院と連携したセミナーの開催など、あらゆる面で病院の運営をサポート。外来も増加し、昨年四月、開院以来五万人目の子どもが誕生した。

「今後も最高の“育児育母”支援を目指し、努力していきたいと思えます」

(三宅芳樹)

埼玉経済

企業、団体商店街などの話題や情報をお寄せ下さい
TEL 048・7995・9161 FAX 048・653・9040